

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2017年7月15日発行

第32号 (通巻第64号)

発行者：岡村広志 編集者：教育・広報部

新潟地方本部 第5回定期大会



大会に向け職場から
活動を盛り出そう！

2017年7月23日(日)
12時30分より
新潟市「ホテル日航新潟」

未来を見据えた体制と方針を確立！



本部 第5回定期大会を開催

中央本部は7月8日、ホテルラングウッドにおいて第5回定期大会を開催しました。退任した渡辺執行委員長に代わり佐藤執行委員長が就任したのをはじめ、新潟地本から新たに3名が中央執行委員に選出されるなど、東日本ユニオンの将来を展望した執行体制と方針を確立しました。

一年間の成果と教訓を共有

JR東日本は今年、発足30年を迎えました。社員、組合員の努力により大きな成果を挙げました。社員、組合員の加入を実現した地方本部の代議員からの「長い年月をかけて人間関係を構築してきたことが成果に結び付いた」との発言や「エルダーに関して本体の仕事が残るのは成果だが、給料半額で責任は現職と変わらないのは厳しい」など、現場からの生の声も語られました。

新潟地方本部選出の代議員は2名が「労働運動の一元化を目指す大会を全組合員一人ひとりが主役の取り組みとして開催するために悩みながら作り出してきた」「昭和採用連絡会を結成し、エルダー制度に関わる問題に対して中心となり取り組んできた」など発言しました。今回の大会では未来を

見据えた役員体制として新潟地方本部からの4名をはじめ平成採用の中央執行委員が多く選出されました。全組合員でたまたかいを創りだしましょう。

エルダー制度に関して職場討議資料を作成

昭和採用連絡会では、4号・エルダー社員制度の誠意ある運用を求める第三次申し入れの団体交渉に向けて5日間にわたり根拠付集会を開催しました。

集会では「グループ会社内には出向先がない等々にハローワークに求人が出ている」「説明と仕事

を共有していただく必要があります。同時に、全てのJR関係労働者の死亡事故ゼロ・重大労災事故ゼロの実現をめざして取り組むとともに、急激な世代交代による技術断層をなくすため、技術継承と人材育成についても追求していくことが課題となります。そのためにも組織の強化・拡大に向けて取り組むと同時に、労働運動の大同団結・一元化の実現に向けて具体的に運動を創り出すことが必要です。渡辺執行委員長は挨拶の中で労働組合の垣根を越えて、多くの社員から共感され信頼される労働組合を創造するために、新たな一歩を踏み出そうと訴えました。

内容は全く違ったため辞めてしまった事例がある」など、エルダー制度に関して各自が持つ情報や

自然も満喫！仁賀保への旅

新潟新幹線運輸区分会 分会旅行

新潟新幹線運輸区分会「見学するなど、自然も満喫は毎年恒例の分会旅行を、6月20～21日の1泊2日で開催しました。新潟駅から特急「いなほ」号に乗り、車内では持ち寄りのお酒とおつまみで思い思いに時間を過ごし、目的地の秋田県は仁賀保へ。大交流会でも酒を酌み交わしながら1年間の奮闘を振り返り、英気を養いました。2日目は鳥海国定公園にある獅子ヶ鼻湿原へ。ブナの原生林の中を歩き、奇形巨木「あがりこ大王」を



意見が出し合われ、様々な視点から議論を行いました。この集会で出された情報や意見を基に昭和採用連絡会では職場討議資料を作成しました。地本ホームページにデ

本部申9号団交 経営側の姿勢を正す

中央本部は7月4日、申9号・エルダー社員制度の運用及びあり方に関する申し入れの団体交渉を行いました。本部交渉団はエルダー社員制度の運用をめぐり「ライフプラン・いきいきガイド」で示されたスケジュール通りに進んでいないことを質しました。

経営側は「良しとしていない」とした上で「社員の希望と雇用先のマッチングに時間がかかっている。社員と真摯に向き合い努力している」と回答する一方で「仕事量、社員の希望など複雑に絡み合っており、遅れないとは断言できない」としました。

交渉団は、制度をつくったのは会社であり、社員に示しているスケジュール通りに運用することは会社の責任だと強く指摘しました。さらに、遅れた理由を求めているのではなくスケジュール通りに運用することを求めていると主張し、スケジュールが遅れることを前提としている経営側の姿勢を正しました。

全社員が安心して利用できるエルダー制度の実現を目指して、職場から広範に議論を創り出しましょう。(昭和採用連絡会投稿)